

会員だより

“オノマトペは”

便利なことば

最近のテレビでタレントが地方を巡って、食材の紹介や試食をしたり、お酒の試飲をしたり、食習慣を自慢する番組が実に多い。その時必ずオノマトペ表現を使う。そうする事で視聴者の想像を掻き立て、一層おいしく感じさせる。例えば外はパリパリ・しゃきしゃきとか中はしっとり・もちもちといった風で実感がこもっている。つまりオノマトペとは擬声(音)語と擬態語の総称である。食感に好感を与えるものもあれば、ごりごり・かすかす・かちんこちん等は余り良い印象を与えない。これからも特に若い世代では新語が現われるだろう。地域や世代によっても使われ方に違いがあるかも知れない。

しやすいと評価していた。確かに頭痛でチクツとしてズーンと痛んでガンガン・ズキズキという時がある。私の表現もまんざらではなかったとニヤリとほくそ笑んでいる。写真は今年1月25日の北野初天神の枝貫いで



、おもいのまま、の短冊がひらひら、瓢箪がぶらりぶらり、梅の花はにこにこ笑顔、梅の香がほんわかと今年も我が家に福をそおと招いてね！ S・U

“びわ湖バレー” 雪を見に行く

韓国ドラマを見ていると、初雪が降ったら恋人同士がデートするのが慣わしのような場面がよく出てきます。雪つてなにかロマンチックな感じがあって、私は大好きです。雪がぱらつくことはあっても積もらない土地に住んでいるからでしょうか。今年も厳冬で北の地方では雪害で苦労されてい

るので申し訳ない気がしますが、私にとつては年に一度くらい積もってほしいと思うのです。どうしても雪に触れたくて、スキー場へ行つて来ました。滋賀県のびわ湖バレーです。朝、9時半ごろ家を出て、京都から湖西線で「志賀駅」まで行き、バス、ロープウェイと乗り継いで、11時過ぎには山頂に立っていました。びわ湖バレーは琵琶湖のちようど中ほどの西岸からすぐの山の上にあります。打見山(1108M)とパンフレットにありま

す。ロープウェイを降りたたたんに厳しい寒気が体をぎゅっと引き締めます。下界は暖かい日で風もなかったのに、やはり1000メートル上では大分違います。早速、待望の雪の上に一歩を踏み出します。昨日、一昨日と大分降雪があったようですが、私を知っている関西の雪ではなく、志賀高原の雪のようにさらさらとした乾いた雪で踏み締めるときゅっきゅつと鳴るのです。「やったー」と子供のようにつぶやくなりました。こんな雪に会いたかったのです。若い頃は毎年スキーに行っていました。滑るのは下手ですが雪の上が大好きだったので。年に20日ある年次休暇を全然とらず、1月中旬に10日ほどいつべんに取るのです。上司も毎年のことで判ってくださって許可してくださいました。当時は今のように交通機関は便利ではありません。ソリをかついで、いつもの仲間10名ほどで、夜行列車で行きました。



雪の上にとっといると昔のこと

すいと滑っているスキーヤーを眺めても、もう自分も滑ってみたいとは思いませんでした。でも見ているだけでもとても楽しかった。屈んで少し雪に触れてみました。来てよかったと思いましたが。山頂付近を足元に気をつけながらぶらぶら歩き、山上のヒュッテで昼食を摂り2時間ほど山を降りました。 F・M

富田の「けさたん」と会

まず、三輪神社でお払いを受けて富田の酒蔵、清鶴酒造と寿酒造の2班にわかれ酒蔵見学の出発。三輪神社は、富田の里の氏神として崇敬され、富田酒・酒造の守護神として祀られている。酒蔵の玄関には、杉玉と柘鱒が飾ってあった。杉玉とは、スギの葉(穂先)を集めてボール状にした造形物。酒林(さかばやし)とも呼ばれる。軒先に緑の杉玉を吊すことで、新酒が出来たことを知らせ、茶色くなるにつれて酒の熟



新酒が出来たことを知らせ、茶色くなるにつれて酒の熟

“流し雛”

お雛様を千代紙や折紙で作り、棧俵(さんだわら)《稲の藁で編んだ直径20センチほどの船》に乗せて春分の日流し雛が行われます。日本全国、流し方は違っても女性の病封じ・安産・子宝の神様等々に願いが込められ川や海に流されます。 E・H



成を知らせる。柘鱒(ひいらぎいわし)は、節分に魔除けとして玄関に飾られたものです。酒蔵の中は暗くヒンヤリとして寒い。寒いから酒つくりに適している。酒蔵の窓は、夜開けて外の冷たい空気をいれ、昼間は冷気が逃げないように閉めるとのことです。酒蔵見学のあとは蔵の中で、お酒の試飲もさせて頂きました。本当に絞りました。感動しました。 S・O

